

～仲間と共に魅力ある産地づくり～

上村 友範、芽衣子さん(久万高原町)

(友範さん)久万高原町青年農業者連絡協議会会長 農地利用最適化推進委員
◎久万高原トマト部会直瀬支部副支部長

中山間地域等直接支払制度直瀬段集落代表 1973 年生まれ

(芽衣子さん)◎久万高原トマト部会青年部副代表 森のハーバルライフ実行委員
1973 年生まれ

ホームページ <https://site.google.com/view/tomato-tsukuri>

フェイスブック <https://www.facebook.com/tomonori.kamimura1/>



☆経営概況☆

栽培品目 夏秋トマト（桃太郎・20a）、水稻（コシヒカリ・70a）

労働力 夫婦と友範さんの母の3人

☆ここがポイント☆

■就農の経緯

宮崎県出身ですが、進学、就職により愛媛に移り住んでいました。以前より農業に興味があり、県内での就農をめざして情報収集をしていたところ、久万高原のトマトに出会いました。久万高原のトマトは価格も安定しており、収量の予測も立てやすく、さらに研修制度や町の就農支援もあって、新規就農実績は県下でもトップクラス。先輩農家を訪問してトマトのおいしさと就農の魅力を知り、研修制度を利用して平成 25 年に就農しました。農家同士仲が良く、先輩農家も積極的に技術を教えてくれます。地域の人も優しく、就農してよかったと思っています。

■担い手の確保と現役生産者の所得向上を目指して

土壌消毒方法や新台木の使用といった土壌病害対策の実証試験や、久万高原トマト Facebook グループを先輩農家と開設して生産者や関係者と情報共有をしています。実証試験では、慣行と比較して約 2 割の増収を見込んでいます。また、青年農業者の活動では、協議会会長として久万での就農の魅力を PR するフォトブックの作成配布や、平成 30 年 7 月の豪雨災害復興支援のためのトマトジュースのチャリティー販売などに取り組んでいます。これらの活動を通してチームワークを育み、産地を活性化させようと考えています。

■トマト栽培は手のかけがいがある

久万高原のトマト栽培では雑草の抑制や土づくりに萱を利用しているのが特徴です。作るならおいしいものをとの想いから、毎年萱を刈取って活用したり、栽培方法等の研究を重ねたりと手間は惜しみません。トマト栽培は奥が深くて面白いと感じています。

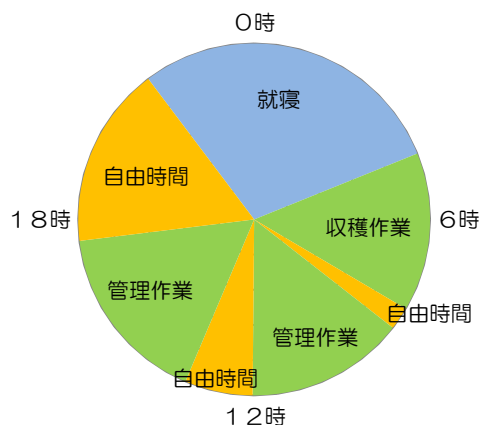


作業について話し合う



萱の刈取り作業

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

(友範さん)自分で作業の組み立てをして、予定に合わせて休みが取れるのは、自営業の強みだと思います。冬場はのんびり過ごしています。日曜大工が趣味なのですが、ゆくゆくは家の修理や改築に挑戦したいです。

(芽衣子さん)多趣味ですが、特に音楽をすることが多いです。主にピアノとギターをしていて、農繁期でも仕事の後に楽しむこともあります。今年夫婦での旅行を計画していて、県外の農業塾に参加した際にお世話になった農家さんを訪問したいと考えています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】（予定に合わせて休日を取る）						
← 収穫・出荷・管理作業 →						
【農閑期】						
← 施設補修 →		← 土づくり →			← 休日 →	



青年農業者の仲間と



初夏にはお茶摘みも

☆これからの夢や目指すもの☆

(友範さん)13 t / 10a、500万円の所得を得られる栽培技術の確立と情報共有の仕組みを作りたいと考えています。新たに来る人が就農しやすい収入が得られるようになればと思います。仲間と協力して収量アップ、所得向上を目指したいです。

(芽衣子さん)石窯やゲストハウスなど、来た人が久万高原の自然を楽しめる場所を作りたいです。また、地域の食文化の継承にも関わられたら良いと思っています。

☆メッセージ☆

農家は人としての総合力を問われるフィールドです。一度きりの人生、農家という選択をしてみたいはいかがですか？久万高原町は個性的な人も多く、積極的にコミュニティに入って暮らせば充実した日々が過ごせますよ！